

2025年度決算 説明資料



2026年5月27日

- 1. 2025年度 決算実績**
- 2. 広島ガスグループ中期経営計画**
- 3. トピックス**

- (1) 都市ガス販売量実績**
- (2) 経営成績**
- (3) セグメント情報**
- (4) 経常利益の変動要因**
- (5) 財政状態**
- (6) 2026年度 業績予想**
- (7) 配当政策**

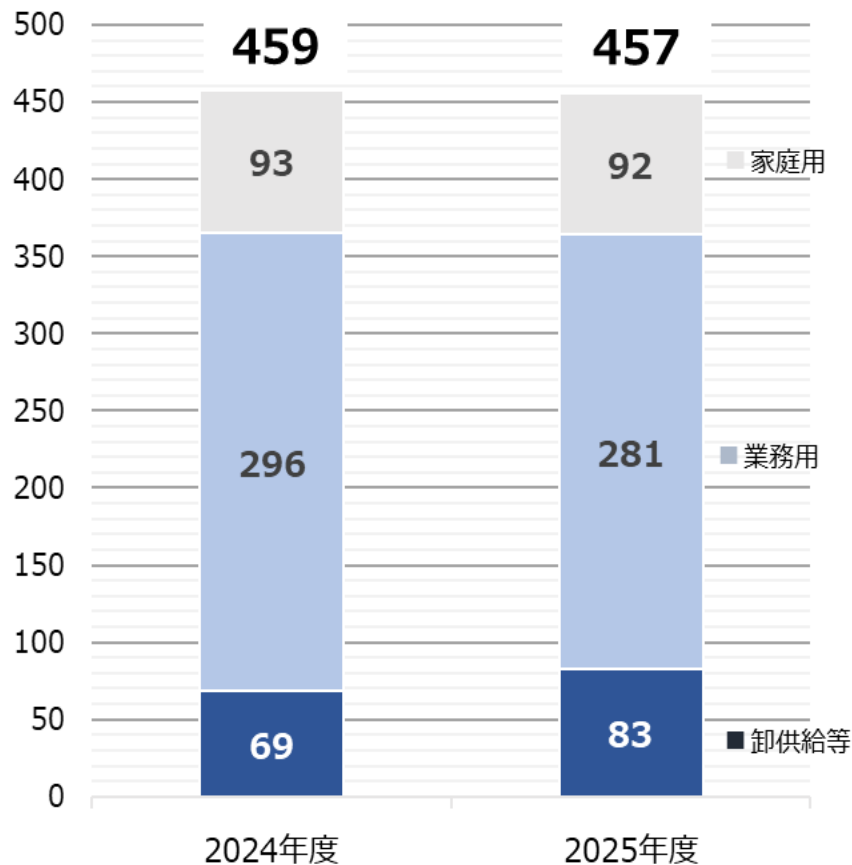
(1) 都市ガス販売量実績



都市ガス販売量

457百万m³ [前期比 : ▲2百万m³ (▲0.5%)]

(単位 : 百万m³)



「家庭用」 92百万m³
前期比 ▲1百万m³ (▲ 1.5%)

- 1~3月の高水温影響 等

「業務用」 281百万m³
前期比 ▲14百万m³ (▲ 5.0%)

- 産業用の販売量減少 等

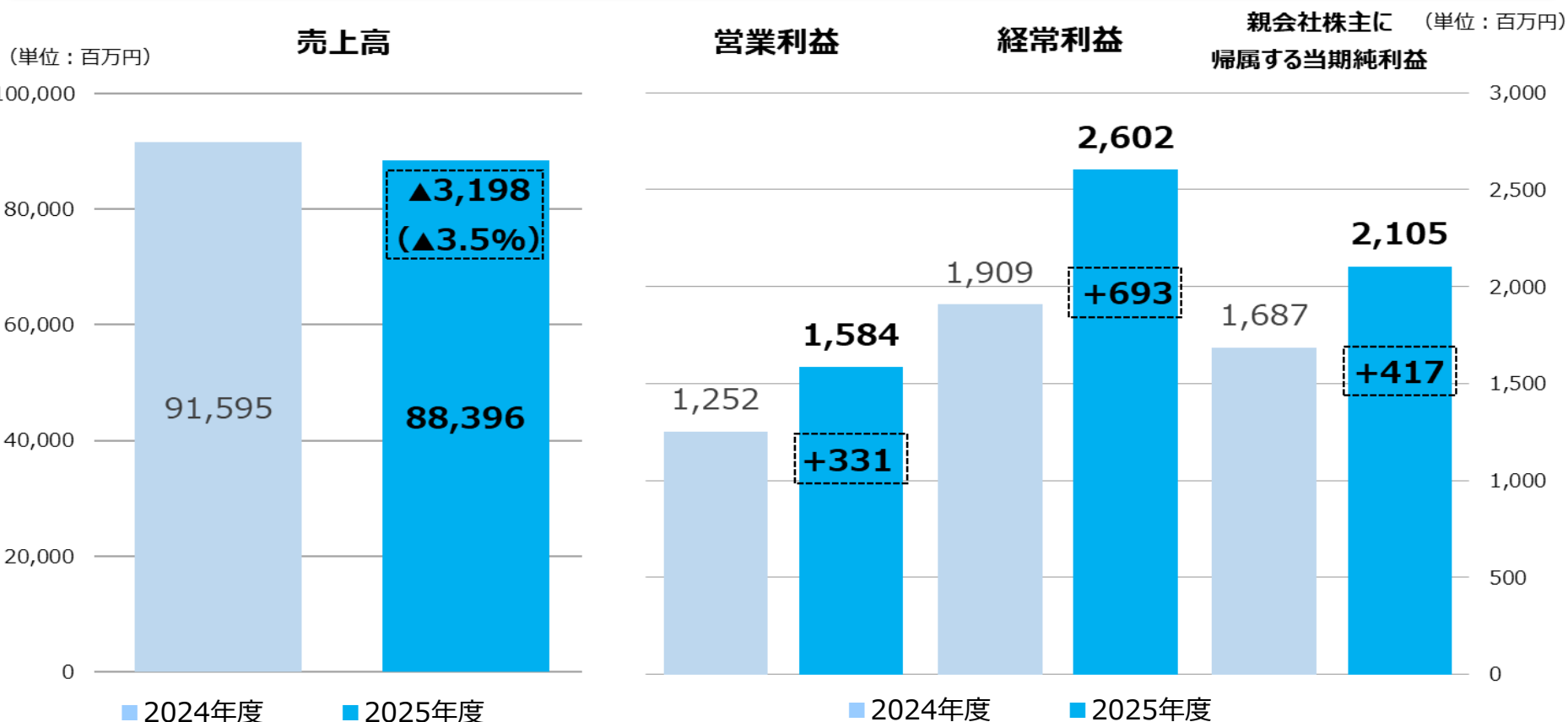
「卸供給等」 83百万m³
前期比 +14百万m³ (+ 20.4%)

- 卸供給先の需要家への販売量の増加 等

(2) 経営成績



- 売上高**減収**（2期ぶり）：ガス販売量の減少および販売単価の低下等
- 経常利益**増益**（3期ぶり）：諸経費の減少や持分法による投資利益の増加等



	2024年度	2025年度	増減
原油価格 JCC (\$/bbl)	82	71	▲11
為替レート (円/\$)	153	151	▲2

(注) JCC (=Japan Crude Cocktail) : 全日本に輸入される原油の月間の加重平均入着 (CIF) 価格

(3) セグメント情報



- **ガス事業：減収増益**
➔ ガス販売量の減少および販売単価の低下により減収
売上原価および諸経費の減少により増益
- **LPG事業：減収減益**
➔ CP価格の下落に伴う販売単価の低下により減収、販管費の増加等もあり減益
- **その他事業（建設事業、高齢者サービス等）：増収減益**
➔ 建設工事売上の増加により増収、建設工事原価の増加により減益

		2024年度	2025年度	増減	増減率
ガス事業	売上高(※)	70,693	67,625	▲ 3,067	▲4.3%
	営業利益	550	961	411	74.7%
LPG事業	売上高(※)	17,981	17,847	▲ 134	▲0.7%
	営業利益	417	270	▲ 146	▲35.1%
その他事業	売上高(※)	2,920	2,923	3	0.1%
	営業利益	214	208	▲ 6	▲3.0%
調整額	売上高	-	-	-	-
	営業利益	70	143	73	104.1%
計	売上高	91,595	88,396	▲ 3,198	▲3.5%
	営業利益	1,252	1,584	331	26.5%

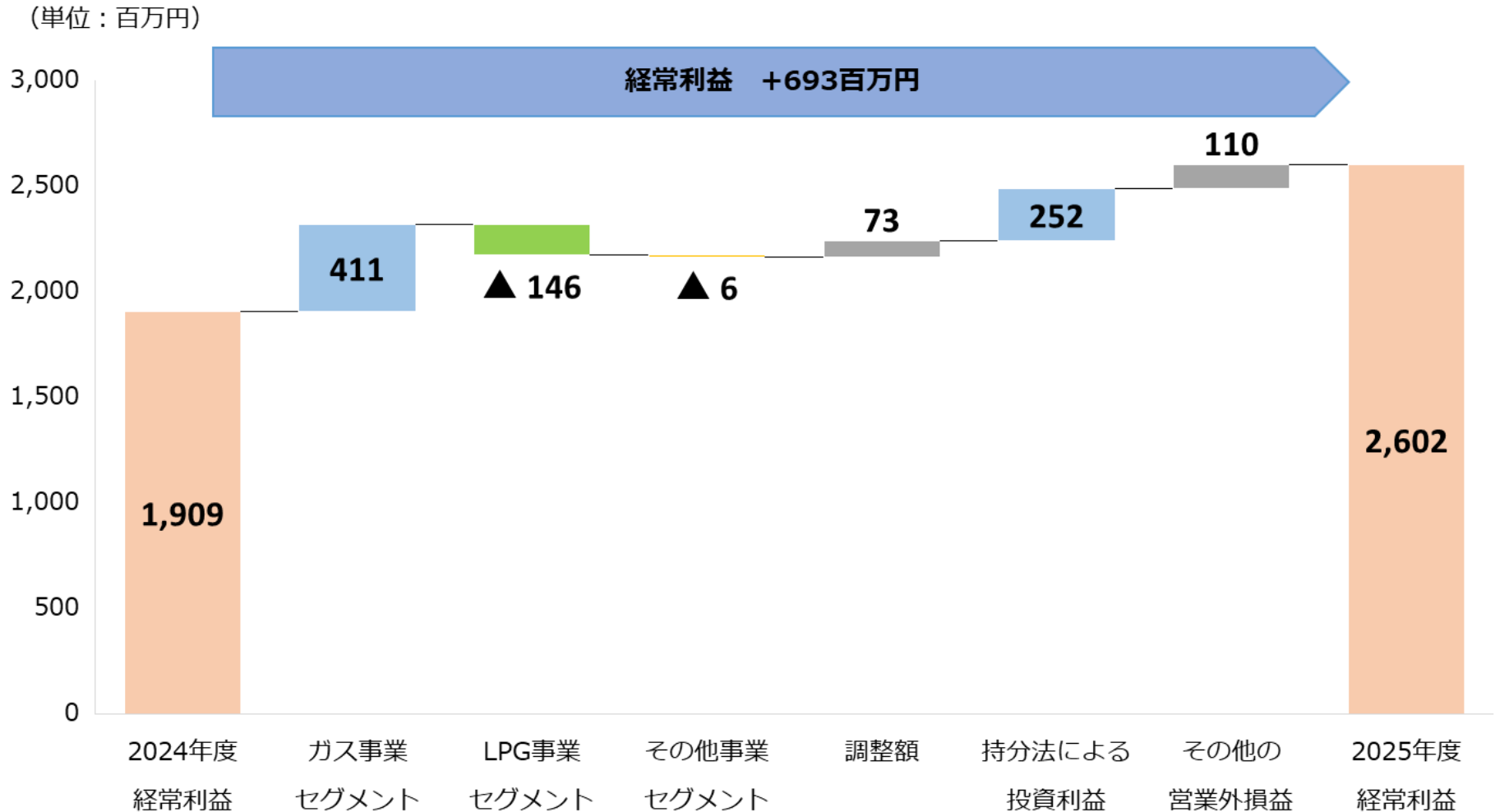
(単位：百万円)

※売上高は各セグメントの
外部顧客に対する売上高

(4) 経常利益の変動要因



- ガス事業の増益、持分法による投資利益の増加等により、経常利益は増益



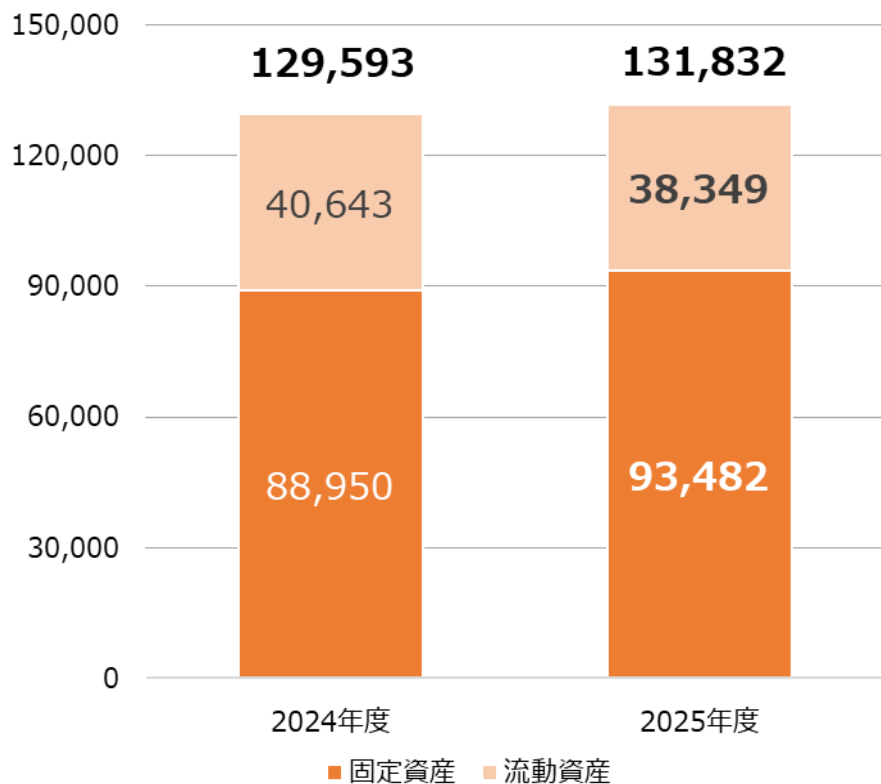
(5) 財政状態～貸借対照表～



- 総資産：対前期末比 +2,239百万円 (+1.7%)
- 負債：対前期末比 ▲980百万円 (▲1.7%)
- 純資産：対前期末比 +3,219百万円 (+4.5%)
- 自己資本比率：54.2% (+1.5ポイント)

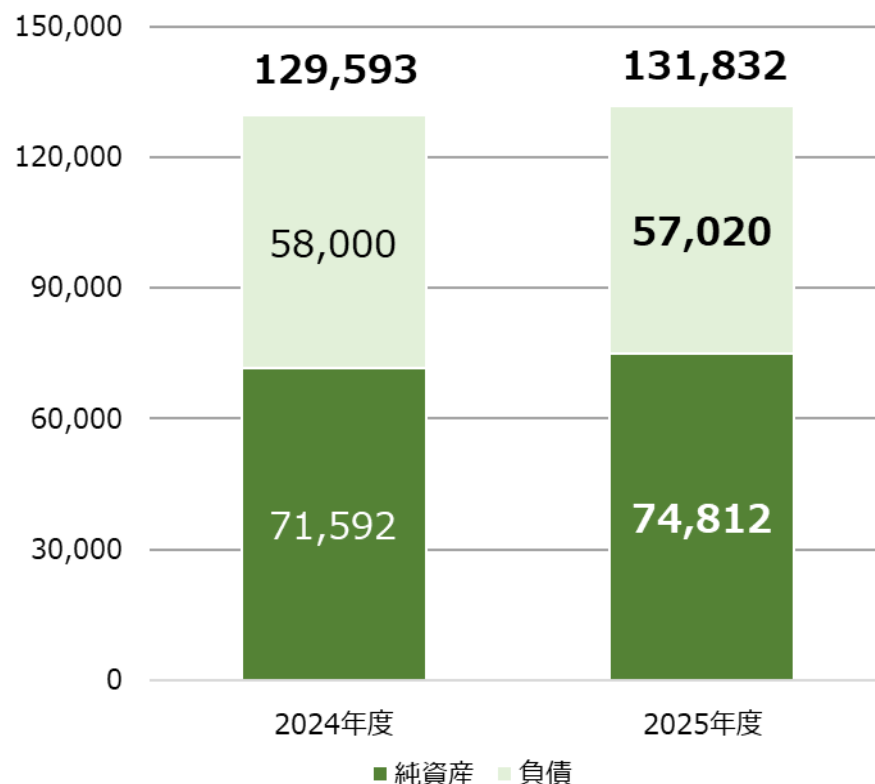
(単位：百万円)

総資産



(単位：百万円)

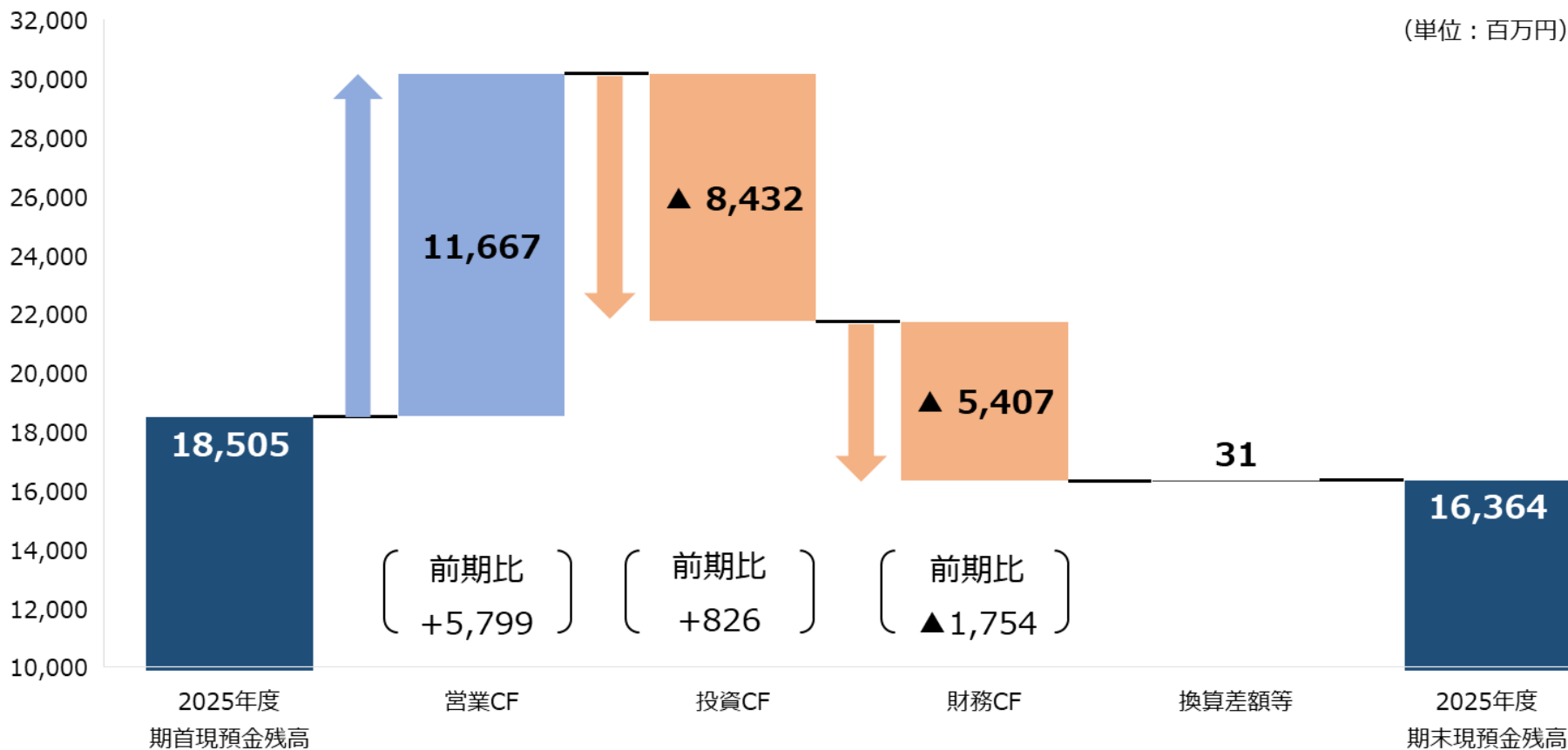
負債純資産



(5) 財政状態～キャッシュ・フロー～



- 現金および現金同等物増減額：▲2,141百万円



	2024年度	2025年度	増減
設備投資額	9,064	9,313	249
減価償却額	7,555	7,600	44

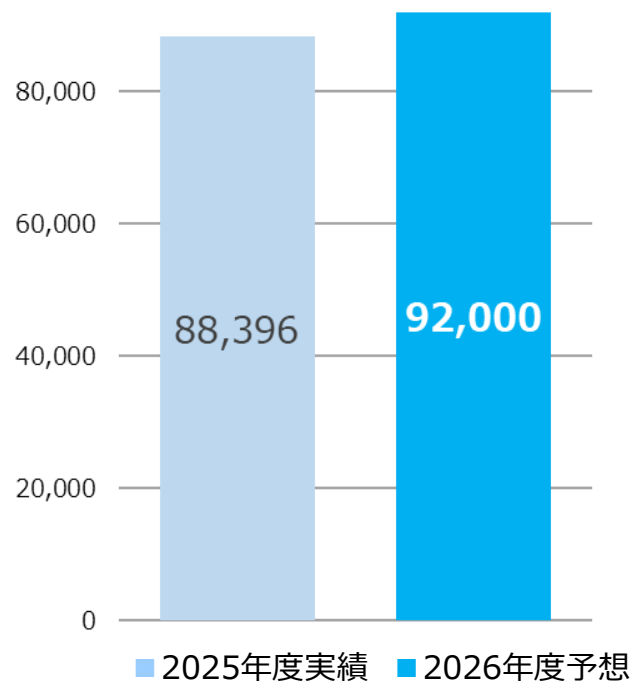
(6) 2026年度 業績予想



(単位：百万円)

(単位：百万円)

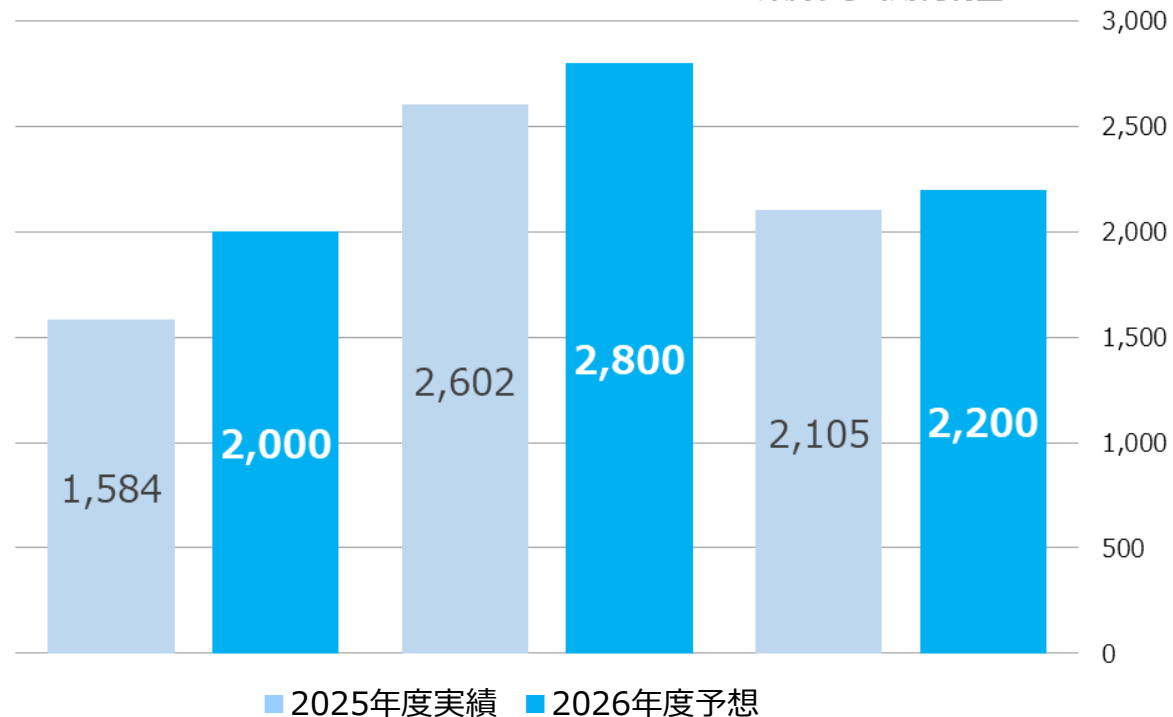
売上高



営業利益

経常利益

親会社株主に 帰属する当期純利益



《前提条件》

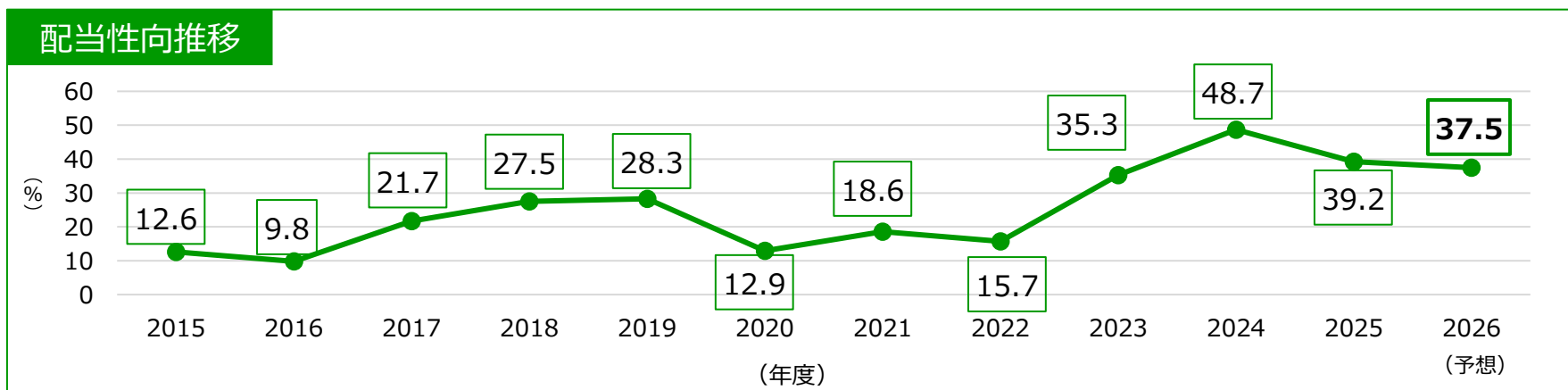
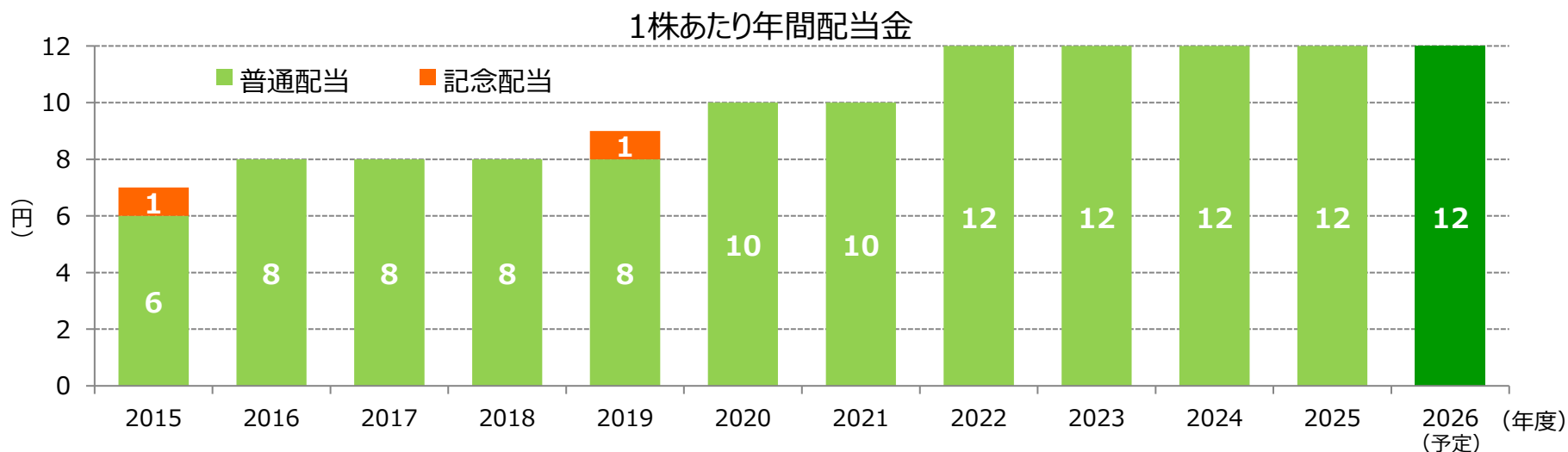
	2025年度実績	2026年度予想	増減
都市ガス販売量 (百万m ³)	457	463	5
電力販売量 (百万kWh)	41	78	37
原油価格 JCC (\$/bbl)	71	80	9
為替レート (円/\$)	151	155	4

(注) JCC (=Japan Crude Cocktail) : 全日本に輸入される原油の月間の加重平均入着 (CIF) 価格

(7) 配当政策



- 配当の実施に当たっては、安定的・継続的に配当を行う基本方針のもと、短期的な利益変動要因を除き、連結配当性向30%以上を今後も維持していく
- 2026年度も前年度水準の配当（年間12円）を維持予定




- (1) 2026年度中期経営計画の概要**
- (2) 計画における「3つの柱」**
- (3) 事業ポートフォリオ**
- (4) 需給計画**
- (5) 設備投資計画**

(1) 2026年度中期経営計画の概要



- 2026年度中期経営計画では、都市ガス・LPG事業における市場の拡大および付加価値創造による「深化」、電力事業の拡大と新たなイノベーションの「探索」を進める方針

2050年カーボンニュートラル 

2030ビジョン目標 

2026年度中計

都市ガス・LPG事業における市場の拡大 付加価値創造による「深化」

ガス供給を起点とした

総合エネルギーサービスの拡充

お客さまニーズに応じた快適な暮らし(家庭用)
最適な事業運営(業務用)を支える
電気を含めたサービスの実施

電力事業の拡大 新たなイノベーションの「探索」

電力の事業エリア拡大 暮らしへの価値提供に資するサービス拡充

再エネ電源の開発
新たな事業領域への挑戦により
強靱な事業ポートフォリオを構築

価値創造に向けて成長原資を再分配

経営基盤の「強化」

グループ組織機能の全体最適化・DX
エンゲージメントの向上による組織の活性化

(2) 計画における「3つの柱」①



- 都市ガス事業については、安心・安全を大前提に、**総合エネルギーサービス事業者として、市場拡大に挑戦**
- L P G 事業については、重油からの燃料転換を中心に、L P ガス販売量の拡大を継続しつつ、**電気とガスのハイブリッドな提案を強化**

① 市場の拡大 付加価値創造による「深化」

都市ガス事業

安心・安全の追求

- ✓ 製造・供給・消費段階におけるお客さまの**安心・安全を追求**
 - ・ スマート保安の推進、災害対策の強化

市場の拡大

- ✓ **家庭用**
 - ・ 電気を含めた総合エネルギーサービス提案の強化
 - ・ 快適な暮らしを支える周辺サービス・リフォーム事業の強化
- ✓ **業務用・工業用**
 - ・ 石油・石炭等からの燃料転換や新規獲得営業の継続
 - ・ エネルギーサービス等を含むソリューション営業の強化

持続可能なガス事業運営

- ✓ **収益構造の適正化**
 - ・ 市場やコスト変動に応じたサービスや価格の適正化

L P G 事業

燃料転換の推進

- ✓ **工業用を中心とした産業用ガス販売量の拡大**

総合エネルギーサービス事業者へ

- ✓ LPガス事業者から**総合エネルギーサービス事業者へ**
 - ・ 電力小売事業への参入により取扱可能となったビジネスモデル・商材等の販売強化

このまち思い
リフォーム
ガスのプロは暮らしのプロ。
あなたの家の困ったもご相談ください。

リフォームキャンペーン 開催中!

一言一言 寄り添って

一つ一つ 丁寧に

一步一步 誠実に。

広島ガスグループ

(ご参考①) エネルギー政策における天然ガスの位置づけ



- 天然ガスは、「第7次エネルギー基本計画」をはじめとしたエネルギー政策において、「カーボンニュートラル実現後も重要なエネルギー源」として位置づけられている
- 確実かつ大規模なCO₂削減手段として、天然ガスへの燃料転換が改めて評価されており、お客さまのニーズも着実に向上している

第7次エネルギー基本計画

- 化石燃料の中で温室効果ガスの排出が最も少なく、再生可能エネルギーの調整電源の中心的な役割を果たすと同時に、**燃料転換等を通じた天然ガスシフトが進むことで環境負荷低減にも寄与**。
- 将来的な技術の進展によりガス自体の脱炭素化の実現が見込まれ、水素等の原料としての利用拡大も期待される等、**カーボンニュートラル実現後も重要なエネルギー源**。

お客さまニーズの高まり

燃料転換の推進



(ご参考②) お客様の安心・安全に向けた取り組み



- お客様の安心・安全に向けた取り組みとして、製造・供給・消費段階での取り組みを推進

お客様の安心・安全に向けた取り組み

製造段階

- **廿日市工場、備後工場、東広島製造所で都市ガスを製造**しており、LNGの受け入れ、ガスの製造等については、**中央制御室で集中的にコントロール**
- **毎日の設備点検、定期的な保守や有事に備えた訓練**を行うことで、安全かつ効率的に都市ガスを製造する体制を整備



中央制御室

供給段階

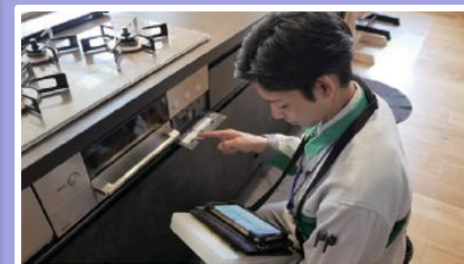
- **保安指令センター**では、工場で製造した都市ガスをお客様のもとへ安定してお届けするため、**都市ガスの圧力、輸送状況等を常時監視**
- 緊急時に備えて、夜間・休日でも迅速に対応できるよう**24時間受付・出動できる体制を整備**
- 災害対策本部や保安指令センターなどの**供給保安機能は、大規模地震にも耐える「広島ガス防災センタービル」に集約**



保安指令センター

消費段階

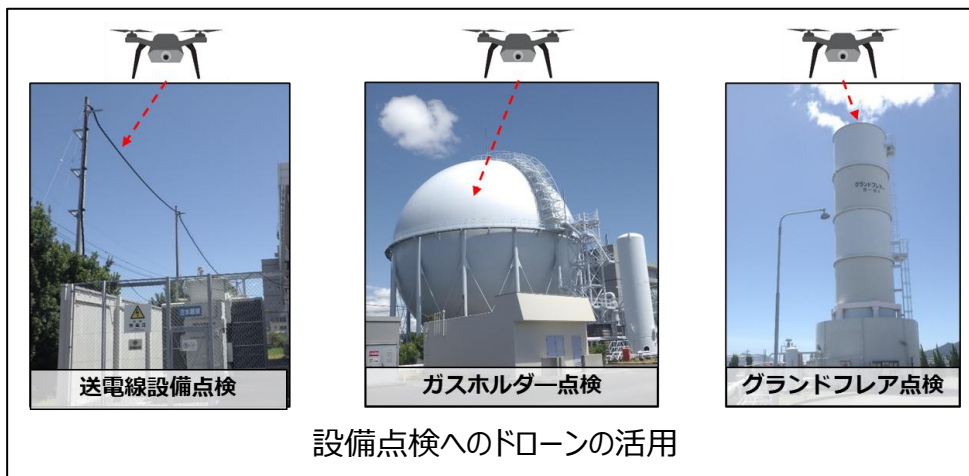
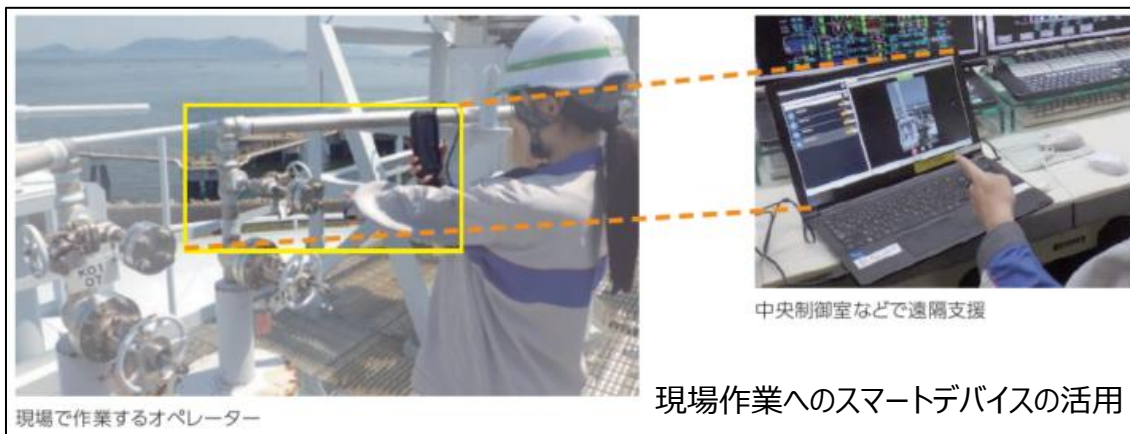
- お客様に安全にガスをご使用いただくために、**ガス設備安全点検**を行うほか、**消費機器を正しく、安全に使用方法を記載したガイドブックを配布**するなど、さまざまな保安活動を展開
- 2025年4月には、消費段階におけるお客様の安心・安全を守るための**総合的な保安対策の立案・推進を行う組織を新設**



ガス設備安全点検

(事例紹介) スマート保安の取り組み

- 廿日市工場では、**ローカル5G環境の構築**と高性能センサーを搭載した**巡視点検ロボット**による**スマート保安**を実証中であり、ローカル5Gで収集データを即時送信し、異常や設備劣化の兆候を早期に把握
- ガスホルダー等の高所設備点検を、**ドローン**を活用して**高度化・効率化**
- **防爆型スマートフォン**を活用し、中央制御室から現場作業を遠隔支援することが可能



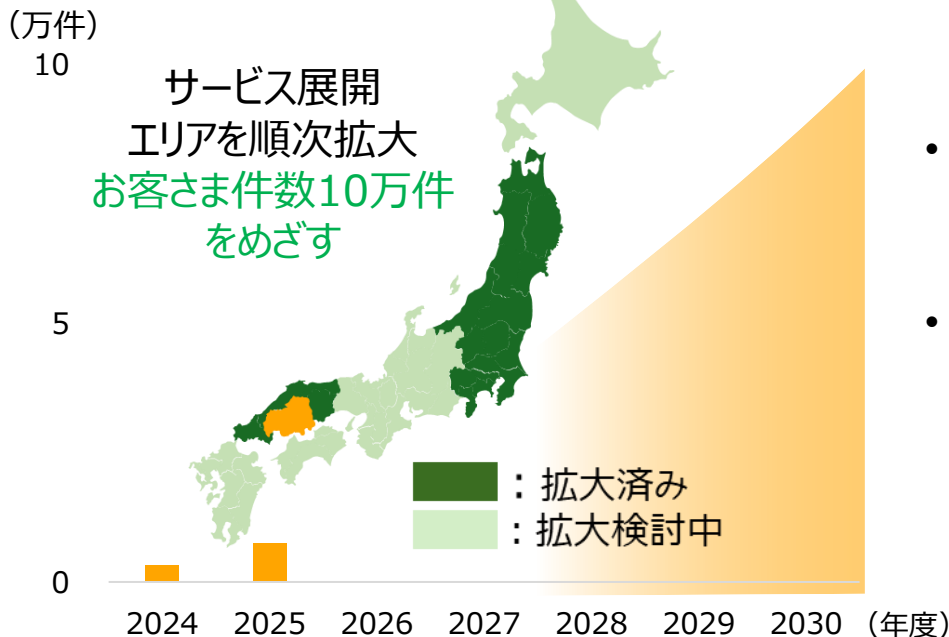
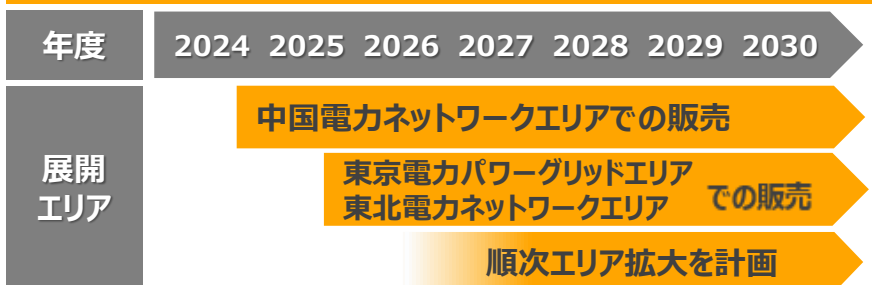
(2) 計画における「3つの柱」②



- 電力小売事業を拡大し、2030年度10万件に向けて事業の土台を形成
- 提供エリア拡大と料金メニューや周辺サービス拡充により持続的な成長基盤を築く

②新たなイノベーションの「探索」

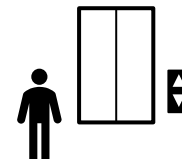
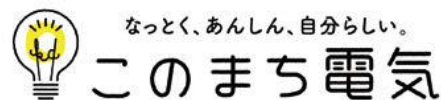
事業展開イメージ



重点取り組み

- **市場の拡大**
エリア拡大、**新料金メニュー「このまち電気(低圧動力)※」**の販売

※業務用エアコンやエレベーターなどの
動力機器を使用するお客さま向けの料金メニュー

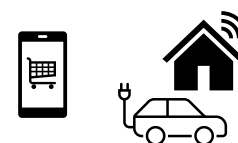


- **販売チャネルの強化**
相対営業の強化(代理店、外部リソース、法人営業)



- **サービス拡大**
市場連動型メニューと親和性の高い
周辺サービスの検討・実施

このまち **MALL** モール
(ECサイト：2025年12月26日オープン)



(2) 計画における「3つの柱」②

- 電源側の取り組みとして、再生可能エネルギー電源の開発を継続拡大

② 新たなイノベーションの「探索」

① これまでの取り組み

■ 小形風力発電事業

- ・ 北海道小形風力発電所(19.2kW×8基)の運転を開始



小形風車の外観（宗谷郡猿払村）

■ LAES※商用実証プラントの運転

- ・ 電力需給の安定化に資するLNG冷熱を活用した蓄電事業（住友重機械工業（株）と共同実施）



LAES商用実証プラント（廿日市場内）

※LAES：液化空気エネルギー貯蔵の略称。
余剰電力で空気を液化し、再気化で発電する技術

② 着手中の取り組み

■ バイオマス発電事業

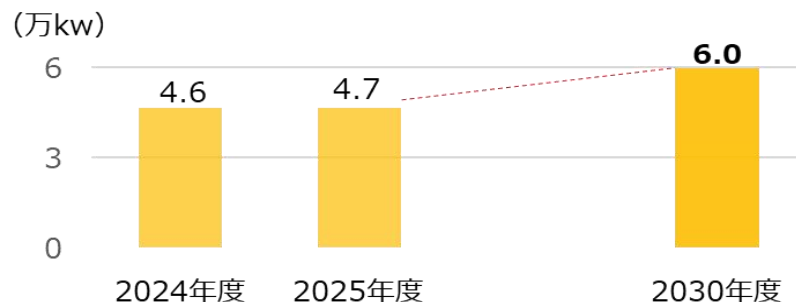
- ・ 広島県廿日市市大野において、国内の林地残材を利用したバイオマス発電事業に着手
- ・ 2026年7月の運転開始に向け、建設工事中



建設中の大野浦バイオマス発電所

③ めざす姿

2030年度時点で6万kWの再エネ電源を確保



- さまざまな再生可能エネルギー電源の開発に、継続して取り組む

バイオマス発電事業 (海田バイオマスパワー(株))

2021年4月運転開始



小水力発電事業 (志和堀発電所)

2021年6月運転開始



太陽光発電事業 (東尾道太陽光発電所)

2024年4月運転開始



(2) 計画における「3つの柱」③

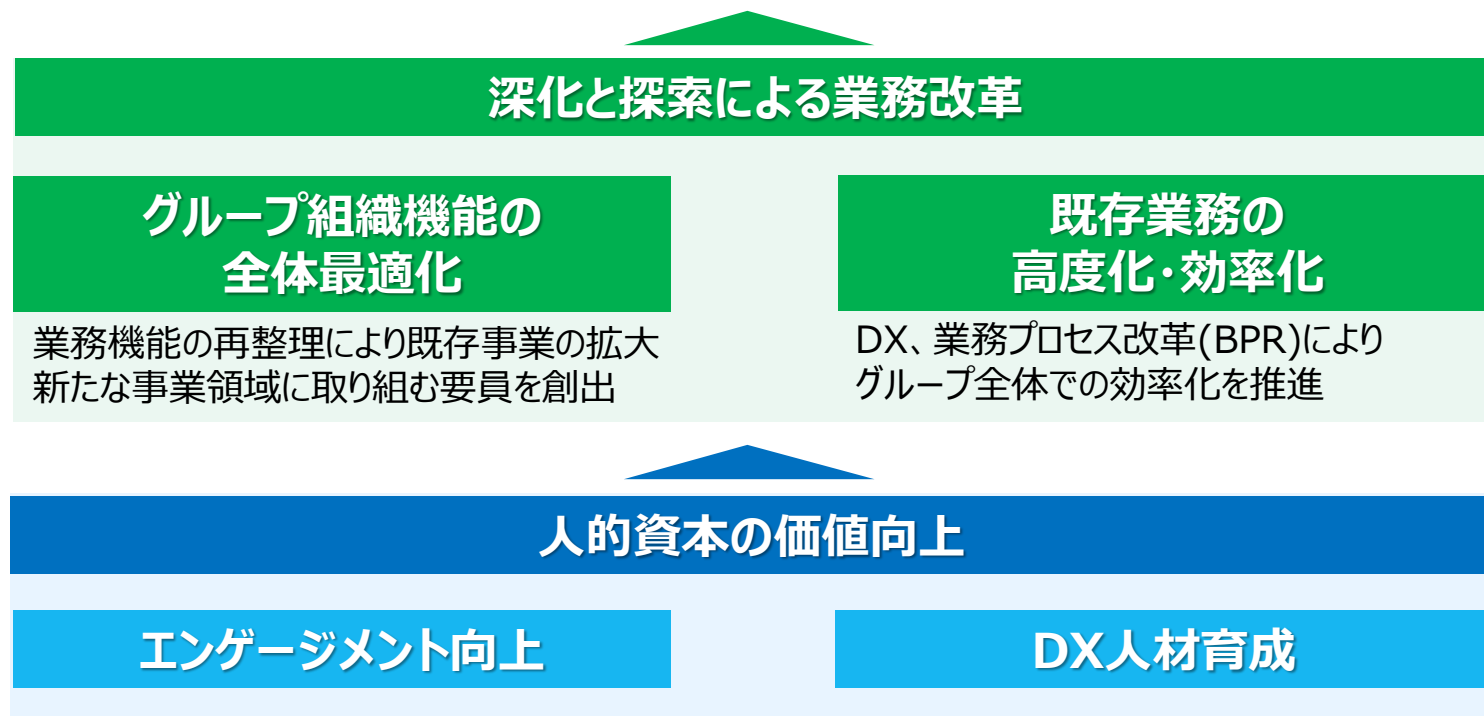


- 「人的資本※の価値向上」と「深化と探索による業務改革」を継続して実行
- デジタル技術を活用した市場の拡大、サービス開発により、新たな事業領域へ挑戦

※人的資本とは、社員一人ひとりの知識・スキル・経験・創造性などを、企業の成長を支える重要な資産として捉えることを指す
当社では、社員が自身の能力を高めるとともに、より活躍できる環境を整えることで、企業価値の向上につなげることをめざす

③ 経営基盤の「強化」

新たな事業領域へ挑戦



(3) 事業ポートフォリオ

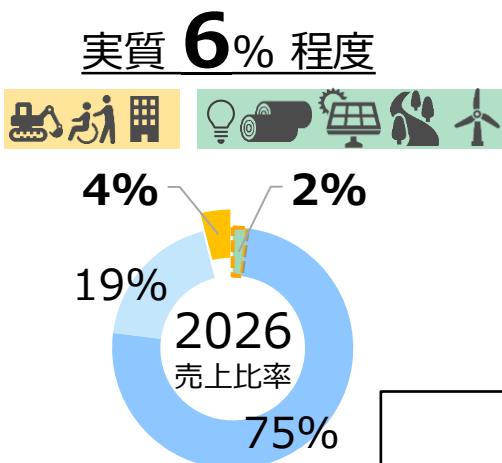
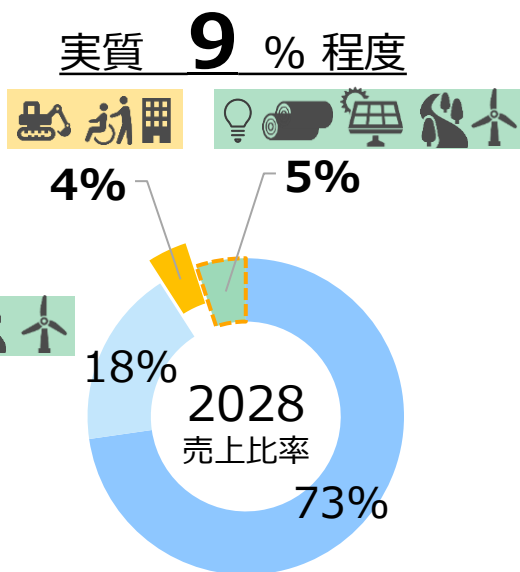
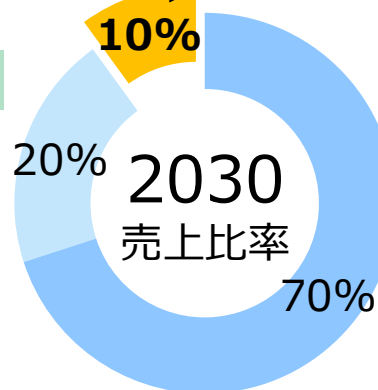
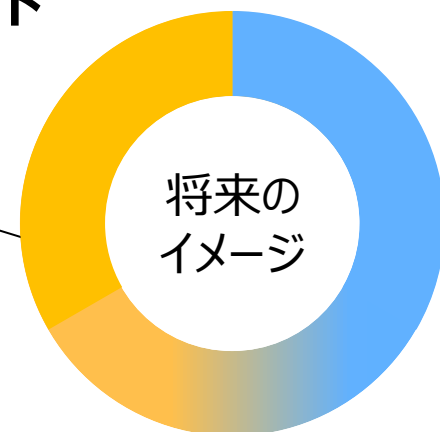


- 電力事業および再生可能エネルギーなど、新たな事業セグメントの創出により強靱な事業ポートフォリオ構築をめざす

2026年度中計期間

2030ビジョンからその先へ

新たな事業セグメント



- 凡例
- : 都市ガス事業
 - : その他事業 2030年度以降は、電力小売・再エネ・都市ビジネス・建設工事・介護等
 - : LPG事業
 - : 電力小売・再エネ等 (現状、都市ガス事業に含む)

(4) 需給計画



- 各事業の特性に応じた最適な営業施策を着実に実行することでさらなる販売拡大を目指す

■ 都市ガス事業

- 家庭用については、お客さま件数の継続した増加をめざすとともに
業務用については、「石油・石炭からの燃料転換」のさらなる提案により、販売量の拡大をめざす
卸供給については、卸先の販売量の拡大や新規開発を支援し、卸供給量の拡大に取り組む

■ LPG事業

- 都市ガスとLPガスの協働営業の強化などにより、工業用などの新規開発営業を推進する

■ 電力事業

- 提供エリア拡大、低圧動力メニュー販売などにより、電力小売の販売拡大をめざす

需給計画		2025年度 (実績)	2026年度 (計画)	2027年度 (計画)	2028年度 (計画)
都市ガス (百万m ³)	家庭用 業務用	374	377	381	386
	卸供給等※1	104	105	104	122
	計※2	478	483	486	508
LPガス (千t)		86	83	85	86
電力 (百万kWh)		40	78	131	198

※1 LNG販売・CNG販売を含む

※2 端数処理の関係上、各項目の合計値は一致しない

(5) 設備投資計画



- 設備投資については、2030年度に向け、累計投資額1,300億円を目指す姿とする
- 中計期間で織り込んでいる投資のほかにも、カーボンニュートラル投資を計画・検討中

■ 都市ガス事業

- ガス販売量の拡大に向け安定供給体制を確保するため、中長期的な視点で製造設備および供給設備の増強・改修・入替等を計画的・効率的に実施する

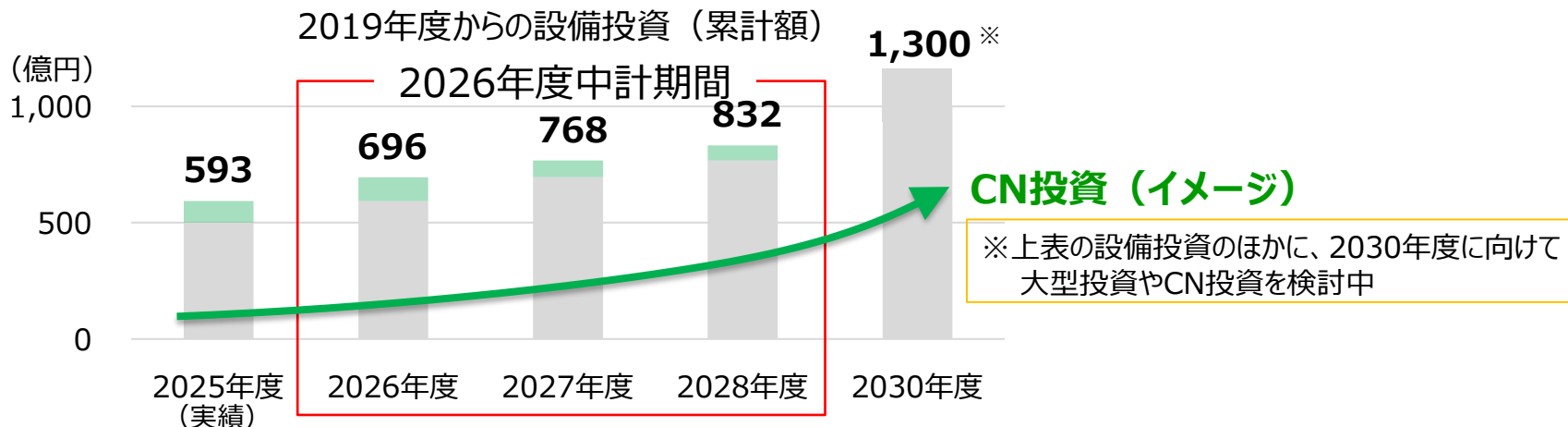
■ LPG事業

- ガス販売量の拡大に向けた設備投資や耐震性の高い導管への入替を継続実施する

■ カーボンニュートラル投資（以下、CN投資と表記）

- 再生可能エネルギーの導入拡大や低炭素化などに貢献する投資を実施する

広島ガスグループ設備投資	2025年度 (実績)	2026年度 (計画)	2027年度 (計画)	2028年度 (計画)
設備投資合計額 (内、CN投資)	93億円 (11億円)	102億円 (13億円)	72億円 (9億円)	64億円 (4億円)



- (1) 「このまち電気」の新たな営業展開**
- (2) 国内の林地残材を利用したバイオマス発電事業**

(1) 「このまち電気」の新たな営業展開～新料金メニュー～

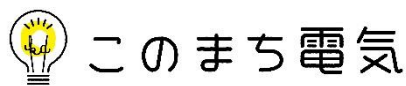


- 2026年1月末より、このまち電気の販売対象を拡張し、低圧動力メニューを販売開始
- 基本料金のコストメリットを強みとして展開

低圧動力メニューとは？

- ✓ ビル・店舗・工場で使用される
機械設備・空調等向けの電力メニュー

動力メニューの供給対象(例)

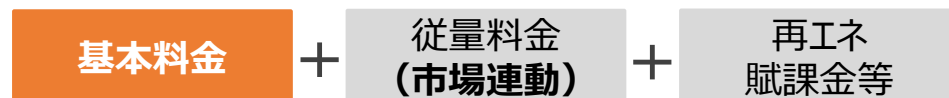


電灯メニュー（一般家庭向け）に加え
動力メニューの供給が可能に

主な特徴

- ✓ 他社と比べ**低い基本料金**

料金計算式



基本料金単価の比較

(円/ kW)

	中国エリア	東京エリア	東北エリア
このまち電気	568.70	731.97	630.30
大手電力*	1,163.92	1,090.05	1,233.10
差額	▲595.22	▲358.08	▲602.80

※ 下記プランの基本料金単価を表示（2026年4月30日時点）
中国電力：低圧電力、東京電力エナジーパートナー：動力プラン
東北電力：よりそうB動力プラン

(1) 「このまち電気」の新たな営業展開～その他～



- 関東事務所の新設により、東日本における営業体制を強化
- 新キャラクター導入を通じ、電力サービスの認知・コミュニケーションを拡充

関東事務所の設置

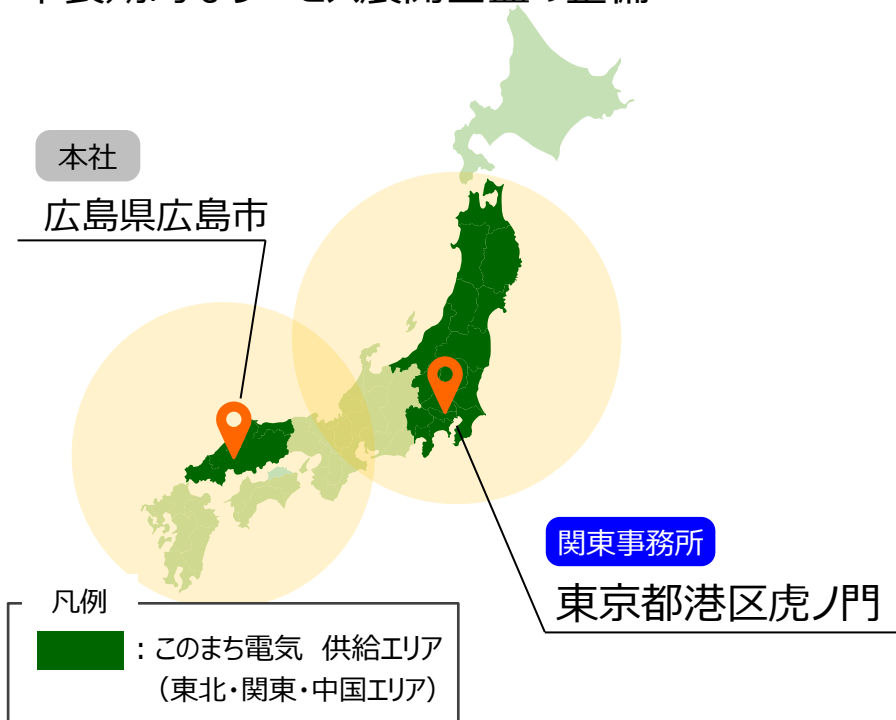
関東事務所の活用方針

- ✓ 販売パートナーの開発
- ✓ 事業者向け営業の実施
- ✓ 中長期的なサービス展開基盤の整備

新キャラクター登場！

電力サービスの新キャラクター「デンキー」

- ✓ サービス認知の向上を図る施策として実施
- ✓ 電力サービスのコミュニケーション要素として活用



キャラクター名称：デンキー

(2) 国内の林地残材を利用したバイオマス発電事業



- F I P 制度※を活用したバイオマス発電事業の実施に向けたプラント建設工事を開始し、
本年7月から営業運転開始予定

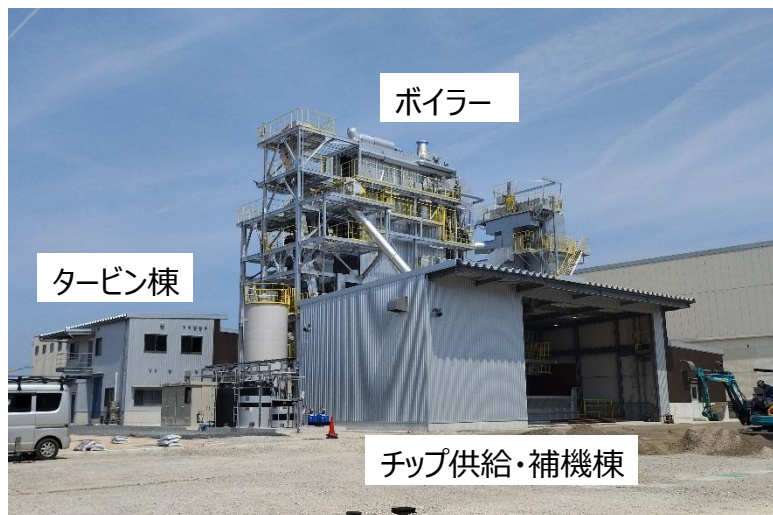
※ F I P 制度:再生可能エネルギー発電事業者が発電した電気を卸電力取引市場や相対取引で売電した場合に、電力広域的運営推進機関が発電事業者に対し、基準価格（F I P 価格）と参照価格（市場取引等の期待収入）の差額をプレミアム（補助額）として交付する制度

【大野浦バイオマス発電所の概要】

発電所名	大野浦バイオマス発電所
所在地	広島県廿日市市大野二丁目11-28
発電規模	1,990kW
想定発電量	約13,800MWh/年 (一般家庭約3,200世帯分の年間電力使用量に相当)
想定CO ₂ 削減貢献量	約6,165t/年
営業運転開始	2026年7月（予定）

✓ 林地残材※を利用するメリット

- 未利用資源の有効活用につながり、森林保全にも貢献できる。
- ※ 林地残材とは、立木を用材用の丸太として搬出した際に林内に残置される枝・葉や根株などの端材のこと。



現状



完成イメージ

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後のさまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。



このまち思いエネルギー。

広島ガス

- お客さま件数 41万9千件（2026年3月31日現在）
- 都市ガス供給区域 広島県内の7市4町
- 広島県東部地区にて福山ガスに卸供給

- 東京証券取引所プライム市場に上場（2022年4月4日）
- 証券コード 9535
- 単元株式数 100株
- 発行済株式総数 68,737,429株（2026年3月31日現在）



供給区域と体制

供給区域(広島県内7市4町)
 広島市、呉市、尾道市、三原市、廿日市市、東広島市、福山市、安芸郡海田町・坂町・府中町・熊野町

お客さま戸数 41万9千戸

凡例		
供給区域 (広島地区)	ガスホルダー	●
供給区域 (呉地区)	ガス製造所	●
供給区域 (尾道・三原地区)	本社・支店・基地	■
幹線 (広島ガス)	検討中幹線	----
	新線 (瀬戸内バイパスライン)	----



(ご参考) 主要決算数値



【ご参考】主要経営指標(過去10年)

(百万円)

	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
売上高	70,002	73,717	81,842	82,268	73,250	76,802	95,219	90,670	91,595	88,396
営業利益	3,812	2,920	1,926	2,971	3,293	3,207	7,021	3,185	1,252	1,584
経常利益	4,310	3,506	2,509	3,454	3,467	4,616	7,412	3,375	1,909	2,602
親会社株主に帰属する当期純利益	5,560	2,499	1,971	2,153	5,272	3,662	5,216	2,329	1,687	2,105
減価償却費	6,858	7,269	7,349	7,344	7,360	7,422	7,312	7,352	7,555	7,600
営業キャッシュフロー(※1)	10,313	9,319	9,320	9,564	12,732	11,270	12,529	9,682	9,243	9,705
設備投資額	8,267	7,401	7,377	6,735	7,147	8,512	8,618	9,971	9,064	9,313
フリーキャッシュフロー(※2)	2,045	1,918	1,942	2,829	5,584	2,757	3,910	-289	179	392
総資産	102,363	102,656	104,935	107,139	115,477	123,802	141,996	137,628	129,593	131,832
自己資本(資本)	45,825	48,332	48,019	49,274	56,769	61,867	64,539	67,128	68,256	71,505
有利子負債	36,310	34,455	36,293	38,616	40,074	45,397	59,772	47,528	44,832	40,347
EBITDA	10,670	10,190	9,275	10,315	10,654	10,630	14,334	10,538	8,808	9,184
ROA(%) (※3)	5.4	2.4	1.9	2.0	4.7	3.1	3.9	1.7	1.3	1.6
ROE(%) (※3)	13.0	5.3	4.1	4.4	9.9	6.2	8.3	3.5	2.5	3.0
自己資本比率(%)	44.8	47.1	45.8	46.0	49.2	50.0	45.5	48.8	52.7	54.2
EPS(円)	82.0	36.8	29.1	31.8	77.5	53.7	76.4	34.0	24.6	30.7
BPS(円)	675.2	715.2	709.0	725.8	833.4	906.6	944.0	980.1	995.0	1,040.3
配当性向(%)	9.8	21.7	27.5	28.3	12.9	18.6	15.7	35.3	48.7	39.2
D/E レシオ(倍)	0.8	0.7	0.8	0.8	0.7	0.7	0.9	0.7	0.7	0.6

※1「営業キャッシュフロー＝当期純利益＋減価償却費」により算定

⇒FY2016、FY2017、FY2019、FY2020、FY2021はキャッシュを伴わない特別損益を加減

＜FY2016＞債務免除益2,105百万円 ＜FY2017＞退職給付制度改定益449百万円 ＜FY2019＞投資有価証券評価損△66百万円

＜FY2020＞減損損失△98百万円 ＜FY2021＞減損損失△86百万円、投資有価証券評価損△98百万円

※2「フリーキャッシュフロー＝営業キャッシュフロー－設備投資額」により算定

※3 ROA・ROE算定の総資産・自己資本は期首・期末の平均値

【ご参考】ガス販売量推移(過去10年)

		FY2016	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
家庭用	販売量(百万m3)	99	104	98	97	103	103	95	93	93	92
	対前期比(%)	-0.9	4.8	-5.2	-1.5	6.9	-0.4	-7.6	-2.0	0.0	-1.5
商業用	販売量(百万m3)	44	45	43	43	35	35	37	37	38	38
	対前期比(%)	1.9	2.5	-4.0	-1.3	-18.3	0.9	3.6	1.0	4.0	-1.4
工業用	販売量(百万m3)	255	271	326	313	304	298	255	230	220	207
	対前期比(%)	5.4	6.3	20.3	-3.9	-3.0	-1.8	-14.5	-9.8	-4.3	-6.1
その他用	販売量(百万m3)	38	38	36	35	35	35	35	34	37	36
	対前期比(%)	5.8	1.5	-5.6	-3.7	1.5	-0.7	0.7	-4.1	7.7	-2.0
卸供給等	販売量(百万m3)	56	58	77	106	90	92	76	85	69	83
	対前期比(%)	-5.9	3.6	30.9	38.1	-15.3	2.3	-17.5	11.7	-18.5	20.4
合計	販売量(百万m3)	494	519	583	596	569	566	500	481	459	457
	対前期比(%)	2.4	5.0	12.3	2.3	-4.4	-0.6	-11.7	-3.8	-4.4	-0.5